



# GOOD NEWS とぎのこえ

# War Cry

10月号

福音版  
2023  
October  
No.2859

二〇二三年 十月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行

## 安心して行きなさい

友安 渚

新約聖書のルカによる福音書七章三六〜五〇節に、このような出来事が記されています。

ある日、ファリサイ派のシモンという人の家で食事が開かれ、イエス様がそこに招かれていました。「フ



アリサイ派」の人たちは、自分たちは律法を忠実に守り、神の前に正しい者であると誇り、律法を守ることができない人たちのことを見下していました。

その食事の席に、「罪深い女」と呼ばれている女性が入って来ました。何の罪かはわかりませんが、そのように呼ばれていたという

ことは、町中の人から白い目で見られ、誰からも相手にされず、孤独を感じていたことでしょう。その女性は、イエス様の足もとにひざまずくと、涙を流し、その涙にぬれた足を、自分の髪の毛でぬぐいました。そして、その足に接吻し、そこに自ら持ち込んだ石膏の壺から香油を注いだのでした。

そこにいた人々は、何事かと驚いたことでしょう。シモンは、イエス様が彼女の行動をそのままにさせていることが理解できず、何も言わないイエス様は預言者とはいえないと思いましたが。律法によると、罪人と一緒にいること、触れることは禁じられていたからです。

すると、イエス様はシモンの思いを見抜いて、たとえ話をされました。「ある金貸しから、二人

の人が金を借りていた。一人は五百デナリオン、もう一人は五十デナリオンである。二人には返す金がなかったため、金貸しは両方の借金を帳消しにしてやった。二人のうち、どちらが多くその金貸しを愛するだろうか。」

(41、42節)  
一デナリオンは、当時の一日の賃金に相当します。シモンは「帳消しにしてもらった額の多い方だと思えます」と答えました。これはもちろん正解で、多くの負債を帳消しにしてもらったら、感謝もより大きいというのは、誰もが納得することでしょう。

このたとえ話に登場する五百デナリオンを借りた人は先ほどの香油を注いだ女性を、五十デナリオンを借りた人はシモンを表しています。債務の額の違いは、彼らの実際の罪の大きさではなく、彼らがどれだけ自分の罪を自覚しているかを表しています。これが、イエス様がこのたとえ話でお伝えになりたかったことです。

イエス様は、女性に、「あなたの罪は赦された」(48節)と言われました。彼女は、この出来事の前に、別の場所でイエス様が語ってお

られるのを聞いたのでしよう。彼女は、自分の罪を深く自覚しつつ、イエス・キリストを救い主として信じたいゆえに、その罪を責められることなく赦していただいた、その感謝と喜びから、イエス様の足もとにひざまずいたのでした。イエス様も、その思いにしっかりと応じてくださり、「あなたの信仰があなたを救った」(50節)と宣言されたのです。誰かと比較して、「私はまだ大丈夫」とか、「あの人のほうが罪深い」とかいうことではなく、自分自身の罪と向き合う時、それを無条件に赦してくださるお方が、イエス様です。

イエス様は最後に、「安心して行きなさい」とこの女性に言われました。「安心して行きなさい」とは、「平安へと行きなさい」という意味です。今この時だけでなく、これから先も平安であるとの約束は、なんと心強いことでしょう。

イエス様は、いつでも、「疲れた者、重荷を負う者に来なさい。休ませてあげよう」と招いておられます。そして、平安を約束し送り出してくださるのです。  
(救世軍士官(伝道者))

特集 山室軍平生誕151年

## 山室軍平 — 祈りの人

1872（明治5）年9月1日、岡山県阿哲郡本郷村（現・新見市哲多町本郷）に生まれた山室軍平。この頃は、長い間の鎖国が解かれ、国の大きな変革期でした。1873（明治6）年2月にはキリシタン禁制の高札が撤廃され、新約聖書の日本語訳が開始されていきました。山室軍平は、青年時代にキリストに出会い、日本人最初の救世軍士官（伝道者）として身を献げます。昨年、生誕から150年を迎えた山室の歩みを改めてたどりま。



## 山室軍平の生涯

日本の救世軍の働きは一八九五（明治28）年に始まったが、最初の十二年間は日本の社会であまり認知されなかった。それが成長したのは山室軍平の寄与によるところが大きい。救世軍は、ウェスレアン・ホーリネス運動として特異な使命をもつ宣教団体である。山室は、急速に工業化しつつあった当時の日本の社会の必要に答えることができるよう、救世軍の働きを進めた。

山室軍平は一八八七（明治20）年、十五歳のとき東京で、昼休みに路傍伝道に出会い、そこで受け取ったトラクトがきっかけでキリスト者となった。「儒教を学んでいたときは、自分を制しようと思っても空しい失敗続きだったが、キリスト者になってからは、容易に自制できるようになった」と山室自身、述懐している。

毎週通っている教会で、洗礼を志願したが、若すぎるのと貧しいのが理由で、洗礼を断られた。二、三日後、夕立の雷鳴の中で山室は下宿の屋根に上り「天からの雨で洗礼を授けてください」と神に祈り求めた。

山室は、自分が見いだしたばかりの信仰を個人伝道で伝えようと、街頭で説教し、トラクトを配布した。職場の工場と同僚にも誘いの言葉をかけ、教会に導こうとした。しかし同僚たちは、教会が上流階級に向いており、平民には縁がない場所だと思いついて、誘いを拒んだ。山室は十六歳にして労働者の救いに関心をもち、貧しい者のために神に身を献げる決心をし、平民伝道に役立つと思われる材料を集め始めた。

京都の同志社在学中も、困窮者への関心

は増していった。救世軍が日本に到来する三年前の一八九二（明治25）年に、山室は、救世軍の創立者ウイリアム・ブース著『最暗黒の英国とその出路』を、友人の石井十次のために、同志社の学生山本徳尚が訳読するのを筆記した。ブースの社会的福音の壮大な計画は、日本の平民に同じような仕方ではないという山室の思いを強くした。

一八九五年に山室は東京に戻り、日本に上陸したばかりの救世軍の本営（京橋新富町）を十月に訪ね、そこで『軍令及び軍律―兵士（信徒）の巻』という小冊子を受け取った。「当時のキリスト教が知識階級と上流階級だけに目を向けていたことに、山室は不満を感じていた。生活に即したキリスト教を求めていた山室にとって、救世軍の『軍令及び軍律―兵士の巻』は、納得がいくものだった。山室が救世軍の働きに引き寄せられたのは、まさに『兵士の巻』のおかげと言っていた。』（R・デイビッド・ライトマイヤー「サムライ救世軍人」、邦訳未）

この書を四十日間熟読して考え抜いた末、山室は生涯を救世軍に献げることを決めた。士官（伝道者）養成所に入り、翌年一月には日本人最初の救世軍士官として任官された。

後年山室は第二代大將ブラムエル・ブースの求めに応じて、文筆の才能を用い、聖潔（せいけつ）についての本を著した。また、サムエル・ブリングル中將の『聖潔の果』を日本語に翻訳した。山室は救世軍の公報紙『ときのかえ』編集長に任命され、また、自宅に小隊を開いた。生活は楽ではなかった。しばしばお金がなく、火鉢の炭も買えなかった。

『ときのかえ』編集長として山室は、日本の民衆の救世軍に対する認識に大きな影響を与えた。文語体をやめて、すべて口語体で



妻の機恵子

編集した。五年で隔週の発行部数は一万部に達した。また、山室の著書の中で抜きん出ていると評されるのは、一八九九（明治32）年に発行された『平民の福音』で、日本のキリスト教文書の古典となっている。この本は五百二十七版を重ね、三百万部以上が発行された。

『平民の福音』は、教育を受けていない人もわかり易く福音を伝えるため、平明な言葉で記され、物語や例話、俳句、短歌、日本や西洋の逸話を使って説明している。山室の友人で社会改良家の賀川豊彦は「宗教文学の偉大な古典」と評している。

救世軍の廃娼運動は日本の社会に認知され、次第に尊敬を勝ち取っていった。当局に公認された売春営業地域である遊郭は、日本古来の風俗のひとつであった。売春宿のほとんどに十代の娘たちが置かれていたが、その多くが貧しい小作農民の娘たちで、家族を飢えから救うためにお金で売られて来っていた。一九〇〇（明治33）年八月には『ときのかえ』婦人救済号が印刷され、士官と兵士たちは手分けして新宿・吉原・須崎などの遊郭でこれを配布し、公娼制度に公然と立ち向かった。遊郭の楼主たちはこれに暴力で応酬した。山室もまた殴打されたこと

\*1 世界の救世軍の指導者 \*2 『聖潔とは何か』昭和6年2月 \*3 教会にあたる

山室を救世軍入隊の決意に導いた『救世軍 軍令及び軍律 兵士の巻』

第二章「救いを維持する心得」第十項「他人の救い」

1. 真の宗教の本領は愛なり。神は愛なり、しかして、キリストの靈なき者は、キリストに属する者なるが故に、靈魂上の能力は、ただこの愛の靈を、十分宿すことによりてこれを有するを得べきものなり。
2. 救世軍兵士は何事にも、いつも、いづこにも、愛の主義によりて、活動することを心がけざるべからず。
3. 前に述べたるごとく真の宗教の本領は愛なり。このゆえに兵士は愛によりて、その一切の思想、感情、行為を治められ、感化せられ、統べらるることを要す。一言にいえば兵士はその公私の生涯を、悉皆（ことごとく）みな、愛によりて支配せらるべきものなり。
4. 愛とは仁慈の謂なり、すなわちすべて我が関係する人々の福祉をねがい、これを熱望して、そのために働くことなり。
5. すべて宗教上の働きは愛によりて行い、他を益せんとする熱望によりて営まらるべきものなり。しかるをもし他人の真の益を求むる心より動かさず、この心をもつて始め、この心をもつて継続せざるものあらば、それは虚偽にしてキリストの心に合わざるものなり。
6. これはただに兵士の動機についてのみならず、またその実際の生活にもあてはまるべきことなり。兵士が日常の行為、宗教上の勤勞はすべて皆、その他人を教化せんと欲する、愛の心を伴わざるべからず。
7. 愛の焰の燃ること低き者はその靈魂もまた弱く、愛の火の消ふる所には靈魂の生命もまた尽く。
8. 愛の焰を維持する法は、これを使用するにあり。他人の靈魂を救うために戦う者のみ、よく光明と、能力を保つことを得べし。
9. このゆえに兵士は我が日常の生活、宗教上の勤勞が、果たして神の榮えと、周囲の人々を益せんと、熱望によるや、否や。はたまた我が言語、行為が果たしてこの熱望を伴うて戻らざるや、否やを吟味せざるべからず。

を聞いて、山室の妻、機恵子はこう言った。「イエス・キリストのために傷を受けたことは、夫にとって名誉です。」

廃娼の戦いは続いたが、ついに日本の政府は、女性が自由意志で廃業し、遊郭を離れることができる法律を定めた。何千人もの女性が自由の身となり、救世軍の婦人保護ホームで世話を受ける者もいた。

山室の多くの仕事の中で特筆すべきことは、彼自身、祈りに身を献げたことと、聖書の聖潔の模範となったことである。賀川

豊彦は山室の生涯を表して「人々の魂を熱愛した」と述べた。その愛は深い祈りの生活から溢れ出たものであった。山室は強く深い敬虔な祈りをもつて日本を愛した。山室の生涯は、同胞への犠牲的奉仕に費やされたのである。

（『ときのかえ』二〇〇三年五月十五日 第二四〇八号「信仰の英雄シリーズ」を基に編集）

『平民の福音』（第五二七版）より

第五章一節「なんじらは地の塩なり」

「なんじらは地の塩なり、塩もし効力を失わば、何をもてかこれに塩すべき。後は用なし、外にすてられて人に踏まるるのみ。なんじらは世の光なり。山の上にある町は隠ることなし。また人はともしびをともしびをすのみに置かず、燈台の上に置く。かくともしびは家にあるすべての物を照らすなり。かくのごとくなんじらの光を人の前に輝かせ。これ人のなんじらがよきおこないを見て、天にいますなんじらの父をあがめんためなり。」（マタイによる福音書第五章一三〜一六節）

イエス・キリストはある時その信者たちにむかい、「なんじらは地の塩なり」と仰せられたことがある。ことばははなはだ短いけれども、その中にいろいろ大切な御教訓が含まれておる。

（第一）塩に大切なものは色の白いことや、又はきめの細かい所ではなくて、そのしおからい味にある。丁度その通り、私共に取って大切なものは、かおかたや、風さいや、くらしむきの高下や、又は収入の多いくないではなくて、全くその信仰、精神の上である。昔サウルという王様は、威あつてたけき堂々たる男児で「彼民の中に立つに、肩より以上民のたれよりも高かりき」という、みごとな人物であつたが、不幸にして神様にさからい、わがままな行いをしたために罰せられ、その王位は当時まだやうと二十二、三歳ばかりの一青年ダビデがこれを、継ぐことに定まつた。その事について神様の御ことばに、「なんじそのかたちと身のたけとをみるなかれ。わがみる所は人にことなり、人は外のかたちを見、エホバは心を見るなり」と、いうのである。（中略）私共のみかけはともあれ、その胸の中には必ず世の常の人のため、よき精神が宿らねばならぬ。たれがどうしても奪うことのできない、信仰上の主義、節操という、一種の塩からい味わいがなくてはならぬ。

（第二）塩はこれをびんや俵に入れてしまつて置いた



リストの兵士はまた必ずこの忙しい人間社会に推しだして、めいめい身分相応の職業を営み、その主義精神を實地にふみ行わねばならぬ。決して昔の仙人や隠者のように世を捨て、又は世から捨てられて用なき人間となつてはならぬ。

（第三）塩の効能はきよめる事、腐敗をとめる事、又は大根でも、ねぎでも芋でも、魚でも、あらゆる物の中にはいつて、これに味をつけることである。かくのごとく私共はそのはいつて行く世の中の罪とがをきよめ、又風俗の腐敗を救い、あらゆる人間社会に神様のおぼし召しを行い、その御榮えをあらわさねばならぬ。

（中略）江州三井寺の境内に、弁慶もちというを売る店があり、久しい以前、ある日ひとりのお客がその店に腰をかけ、もちをくいながら湖水のけしきをながめておると、そこへ五、六人の学生がどやどやといつてきて、これも同じく一さら二さらずつ右の弁慶もちを食べ、やがてめいめいふところをさぐつて、その食つただけずつのもち代を、そこへ投げ出して帰つて行つたが、茶屋の方では急におかねを勘定しようともせず、至極のん気な風にかまえておるから、前のお客はいぶかしく思い、「あんなに若い学生が勝手に食い散らした上、かねを置きつ放して帰つたのでは、ちつとは間違つこともあるだろうね」と尋ねると、おかみさんは無造作に、「なあに、あれは京都のヤソの書生さんですからね」と言つたが、この返事を聞いたお客は、その時始めてキリストの教が人を感化する力の、それほどまで大いなることを知つて、ひどく心を動かし、家に帰つて後、試みに近所の伝道者を探ねて信仰の筋道を聞いて見ると、ますます思いあたる所があつたゆえ、間もなく悔い改めて熱心なるキリストの信者となつたというのである。聖書に「さらば食うにも、飲むにも、何事をなすにも、すべて神の榮えをあらわすようにせよ」とはこの事をいうたものである。

ただでは、一向なんの役にも立たない。必ずこれを他の食物の中に入れて、初めて塩の用をなすごとく、キ

創立者 ウィリアム・ブース 大將 リンドン・バッキンガム (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 スティーブン・モーリス (救世軍本営 東京都千代田区)



### 世界をみつめて

#### 〈米国〉ハワイ・マウイ島での山火事への対応

8月8日にハワイ・マウイ島で発生した山火事は大きな被害をもたらしました。救世軍の緊急支援チームは火災の発生直後から、被災し避難している人々への支援をおこなっています。火災で町の大部分が焼け落ちてしまったラハイナでは、救世軍の小隊(教会にあたる)の会館やバザー施設も全壊しました。小隊の責任者のケビン・ナガサキ特務はカフルイ小隊や避難所での支援活動に携わっています。ハワイ・太平洋諸島地域の救世軍の責任者トリマー少佐は、「建物はやがて再建されるでしょうが、今はマウイ島の人々への食事の提供とともに、精神的なケアに

重点を置いています。マウイ島の人々、そしてマウイ島を愛する世界中のすべての人々にとって、今は悲惨な時ですが、救世軍は、困っているすべての人々のために支援をおこないます」と述べています。

救世軍は、地元の機関や非営利団体と協力し、マウイ郡やアメリカ赤十字社による避難所など34の拠点で、火災から避難してきた人々に対し、8月23日現在、153,997食を提供しました。現地の救世軍では、ホームページを通じて支援活動のための寄付を募っています。Hawaii.SalvationArmy.orgをご覧ください。

#### 〈カナダ〉北西部での山火事への対応

カナダでは8月中旬、北西部のイエローナイフやケロウナなど各所で大規模な山火事が発生し、およそ2万人

もの住民を対象に避難命令が出される事態になりました。救世軍はイエローナイフで消防の初期対応にあたる人々に食事と水の提供をしました。ケロウナやウェストケロウナの町では、自治体及び州政府関係者、国際ロータリークラブ、ライオンズクラブ、地域の企業と協力し、食事、避難場所、医療品の提供をおこなっています。緊急支援チームは、すべての避難者、また前線で作業に当たる人々が安全に、食事や飲料水を得ることができるよう支援を続けています。(8月26日現在)



ウェストケロウナの支援拠点にはトルドー首相が訪れ励ました



マウイ島 避難所での食事支援



イエローナイフでの緊急支援



## 救世軍とは? What is The Salvation Army?

心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man

救世軍は、英国ロンドンに国際本部を置き、世界134の国で活動するプロテスタントのキリスト教会です。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で、家のない人々、アルコールの悪影響下にある人々、搾取される女性や子どもたちに助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。

日本では1895(明治28)年に英国から士官(伝道者)たちが来日して、救世軍の働きが始まりました。日本人最初の救世軍士官となったのは山室軍平です(2-3ページ記事参照)。その妻 機恵子は、廃娼運動で救出された女性たちを保護するための「婦人救済所」の所長となり、女性たちの自立支

援に力を尽くしました。後には結核療養所設立のための募金に携わるなど、山室と共に、神と人のために積極的に活動しました。

現在、日本の救世軍では2つの婦人保護施設を運営しており、困難の中にある女性たちへの支援を続けています。また10月15日は、救世軍では特に女性の働きを心に留め、祈り、海外支援のための「きずな献金」を献げる日曜日となっています。今年の献金は、シンガポール・マレーシア・ミャンマー及びタイの救世軍がおこなう、ミャンマーでの人身取引防止のための啓蒙活動に用いられます。



婦人救済所(前列右から3人目が機恵子)

救世軍公報 ときのごえ  
発行日 福音版/毎月1日、広報版/奇数月15日  
定価 福音版/1部40円、広報版/1部100円  
(税込) クリスマス特集号(12月1日号)/1部100円  
振替 00180-5-4400  
発行兼 救世軍  
印刷人 代表者 スティーブン・モーリス  
編集人 山谷 真  
発行所 救世軍本営 <https://www.salvationarmy.or.jp>  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17  
電話 03-3237-0881(代表)  
Mail [jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org](mailto:jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org)  
印刷所 ピーアンドエス



聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会 救世軍は、旧統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

#### 【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営(左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。  
・私の近くの救世軍を紹介してください。 ・キリスト教についてもっと知りたいです。  
・『ときのごえ』の購読を申し込みます。 ・相談を希望します。